

6/1

古川祭の「空気感」を体感できる施設に生まれ変わる

新型コロナウイルスの影響でオープンを延期していた、「飛騨古川まつり会館」が6月1日にリニューアルオープンしました。

リニューアルした施設は、「息づかいが聴こえるまつり会館」をコンセプトに、祭り当日の「空気感」が体感できるような展示装飾に一新され、施設内は、「白壁土蔵街」を再現し、4Kシアターやからくり人形などの奉納芸の展示のほか、「呼び引き」の伝統的な料理を再現した展示などを追加し、祭りの魅力をより感じられる施設となりました。

この日は、同館で記念式典があり、関係者約60人が出席。あいさつで都竹市長は「祭り当日の町全体の雰囲気を感じていただける施設になった。観光の柱として多くの方に訪れていただきたい」と話しました。



6/1

車いすで入店可能な店舗や施設をマップに

飛騨地域の障がい児の保護者らでつくる市民団体「あかりんぐ（高山病弱児を守る会）」が市内の車いすで入店可能な店舗や施設をまとめた「飛騨おでかけバリアフリーマップ」の完成を都竹市長に報告しました。

マップは、「平成31年度飛騨市やさしいまちづくり応援助成金」を活用し、あかりんぐのメンバーらが各施設を実際に回り作成しました。

マップには、市内の宿泊施設、飲食店など36施設を写真付きで紹介しているほか、多目的トイレの有無などの表示がされています。

あかりんぐの勝田なお子会長は「子どもから高齢者まで幅広い方々にこのマップを利用していただけたらと思います。ぜひたくさんの方に知っていただきたい」と話されました。（P18「まちづくりレシピ」でも紹介しています）



6/4

小径広葉樹の更なる活用と販路拡大を目指す

小径広葉樹の販路拡大を目指す市や事業者などが連携組織「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」を設立しました。

連携組織を構成するのは、林業者、木工業者、建築業者と市など合わせて17事業者・団体です。これまでは各事業者が広葉樹の製品を製造・販売していましたが、関係機関が連携してさらに多様な製品の製造、新たな販路拡大を目指します。

4日に古川町内で設立総会が行われ、西野製材所の西野真徳社長を会長に選び、規約を承認。西野会長は「飛騨市内には林業者や製材所、販売店などがそろっている。豊富にある広葉樹資源を商品として循環させられるようにしたい」と話されました。





6/9

ア 岐阜県森林文化アカデミーとの連携協定締結式 アカデミーとの連携で広葉樹の活用推進を図る

市が取り組む「広葉樹のまちづくり」の推進に関する連携関係を構築するため、市と県森林文化アカデミーとの間で連携協定を締結しました。

協定により、アカデミーは広葉樹を活用する人材の育成事業の監修や、講師の派遣、市は市内での就職を目指すアカデミーの学生を対象とした奨学金制度などに取り組みます。

9日に美濃市の同アカデミーで締結式が行われ、都竹市長とアカデミーの涌井史郎学長が協定書を取り交わしました。

都竹市長は「今回の協定締結により森林文化アカデミーが持つ豊富な知見を大いにお借りし、この取り組みをさらに発展させていきたい」とあいさつしました。



6/9

飛 大学設置に関する連携・支援協定締結式 飛騨市に私立大学の設置を目指す

市内に4年制私立大学の設置を目指す一般社団法人「飛騨高山大学設立基金」と飛騨市との間で連携・支援協定を締結しました。

同基金は、土地の条件や市の政策理念との一致から、古川町宮城町の工場跡地を建設候補地に選びました。大学の名称は「飛騨高山大学（仮称）」で、経済学部地域経済学科のみを持つ単科大学で、2024年の開学を目指しています。

協定に基づき、市企業立地促進条例による助成や、大学立地に向けた調整やカリキュラム策定、学生誘致などの連携・支援を行います。

9日に市役所で締結式が行われ、都竹市長と同基金の井上博成代表理事が協定書を取り交わしました。都竹市長は「大学認可に向けて共に手を携えて頑張っていきたい」とあいさつしました。



6/10

飛 根尾昂選手飛騨市後援会設立総会 飛騨市民みんなで根尾選手の活躍を応援

プロ野球中日ドラゴンズの根尾昂選手を応援する後援会の設立総会が10日、市役所で行われました。

後援会は、根尾選手を少年野球時代から見守ってきた清水昭南さんら市民有志が2019年に準備委員会を発足し、球団側との交渉を経て後援会を設立しました。入会は市民限定でホームページなどで受け付け、会員には、「令和」を揮毫した茂住さんが手がけた「昂」の文字と、打席に立つ根尾選手の姿と一緒にデザインした会員証が交付されます。また、今後球場などへの応援ツアーなどを企画していく予定です。

10日に市役所で設立総会が行われ、名誉会長に就いた都竹市長が「大勢の市民で、根尾選手に寄り添って応援したい」とあいさつしました。



6/22
23

棚 宮川町種蔵の棚田で石積みワークショップ 棚田保全と空積み技術の継承を

宮川町の種蔵地区で22・23日、棚田の石積みを補修するワークショップが開かれ、県内から9人が参加しました。

このワークショップは、冬の積雪や雨の浸食などによって崩れた棚田の石積み補修を通して、コンクリートなどを使わずに自然石を積み上げて造る「空積み」の基本を学び、その伝統的工法の継承や棚田の保全を行うために、市と板倉の宿種蔵の企画により開かれました。

参加者は、30年以上石工職人として日本各地で石垣施工をしている今井了恵さんから、石積みの基本や積み方、勾配、内部の構造などを学び、傷んだ石積みを手分けして崩したり、手作りのクレーンや人力で丁寧に組み直しました。



6/25 **防** 公益社団法人日本公衆電話会から「こども手帳」の寄贈
 災と交通安全に活用してほしい

公益社団法人日本公衆電話会は25日、児童が災害や事故、犯罪から身を守る方法などをまとめた「こども手帳」を市に寄贈しました。

この手帳は、登校時の交通事故や連れ去りなどの危険から身を守る方法や、緊急通報の仕方、インターネットの正しい使い方、地球温暖化を防ぐための取り組みなど社会の一員として大切な心掛けを紹介しており、市内小学校6校の4年生児童全員に配布されます。

この日は、同会東海統括支部の前田和也事務局長とNTT西日本の白川一公高山支店長が訪れ、沖畑教育長に手帳を寄贈しました。

前田事務局長は「こども手帳の寄贈は今年で7回目となります。ぜひ活用していただければ幸いです」と話されました。



6/30 **長** 中齋正己行政相談委員「総務省中部管区行政評価局長表彰」受賞報告
 年の功績をたたえる

行政相談委員を長年務め、総務省中部管区行政評価局長表彰を受章した神岡町の中齋正己さんが30日、都竹市長に受賞を報告しました。

中齋さんは平成21年から行政相談委員として、毎月神岡振興事務所ですて定例相談会を開設し、地域住民から行政への要望や相談を受けてきたほか、自宅でも相談を受け付けてきました。また、岐阜行政相談委員協議会高山支部長を務めるなど、委員団体活動に貢献したことが評価され表彰されました。

30日に市役所を訪れ、都竹市長に受賞を報告した中齋さんは「地域住民の小さな悩みや要望などに一つひとつ丁寧に対応してきたことが表彰につながったと思う」と話されました。



市民ライターがまちの話題をお届け!!
広報ひだまち特派員レポート

5月から採用している市民ライター「広報ひだまち特派員」が市内のさまざまな話題をお届けします。
 (特派員：小林 淳子・岡田 直樹)

6/20 **子** 全天候型の子どもの遊び場「ハートぴあ広場」がプレオープン
 子どもたちが安心して遊べる場所を提供

(特派員 岡田 直樹)

全天候型の子どもの遊び場「ハートぴあ広場」が20日、ハートピア古川にプレオープンし、多くの親子連れが訪れました。

同広場は子育て支援センター利用者らのアンケートで「雨天や冬季の遊び場が少ない」といった声が多く寄せられたため開設したものです。広々とした人工芝の多目的ホールで、ボールプールやフラフープなどの遊具が楽しめます。

杉崎の沖村美記さんは1歳の颯久君と訪れ「家の中では物足りないのか元気に走り回り、父の日なのでお父さんの似顔絵も書きました。友だちもできそうですし、これからも利用したいです」と笑顔を見せていました。



6/28 **自** 宮川町種蔵 myみょうが畑プロジェクト
 分だけのみょうがを育てる

(特派員 小林 淳子)

栽培から収穫まで自分だけのみょうがを育てる「myみょうが畑プロジェクト」の草取りとみょうがの間引き作業が28日、宮川町種蔵地内で行われ、地元の方や県内外から約20人が参加されました。

この日は、地元農家でみょうが作りの師匠である中谷節子さんと水谷敏子さんから説明を受けみんなで畑へ。みょうがと草が一面を覆う緑の畑にびっくりしながらも、みんなで楽しく草取りとみょうがの間引き作業を行いました。

中谷さんは「手をかければかけただけいいみょうがができる。こんなに大勢の方に集まってもらえて感激した」と喜んでいました。



広報ひだまち特派員をご紹介します!! ～岡田 直樹さん～

市民と飛騨市の架け橋となれるように、皆さんの声に耳を傾けていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。